

震災復興に向けて?さけます飼育技術研修員の受入?

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小野, 郁夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009801

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



震災復興に向けて ～さけます飼育技術研修員の受入～

さけます資源部 伊茶仁さけます事業所 小野 郁夫



被災県を対象にした栽培漁業技術研修の一環として、岩手県のふ化場から 2名の研修生を受け入れました。

道東のさけます事業所の5月は、サケ稚魚の放流を迎える時期となり、健康な稚魚放流を行うために様々な作業が行われております。言い換えれば、この時期は飼育管理技術を習得するとても良い時期といえます。

今回、昨年の東日本大震災において被災された岩手県三陸やまだ漁業協同組合より、サケのふ化放流事業を担当している2名の研修生を伊茶仁さけます事業所、虹別さけます事業所に迎え入れて、飼育管理技術に関する研修を行いました。

まずは、研修員の方を紹介いたします(写真1)。一人目は、湊 和道さん。震災直前まで植木職人として造園業に就いていましたが、手塩に掛けた多くの樹木も津波により流されるなど復職の目処が立たず、新たな職を探していたところ、縁あって平成23年9月より三陸やまだ漁協の織笠ふ化場に勤務することとなりました。

二人目は、福士晃弘さん。震災時は県立宮古高校の3年生でした。卒業後、家の手伝いやアルバイトをしながら就職活動をしており、縁あって本年4月より三陸やまだ漁協の織笠ふ化場に勤務することとなりました。

お二人とも明朗快活で、各種作業に対しても機敏に対応しており、意欲的に研修に取り組んでいました。懇親会の席で、ふ化場への就職について伺ったところ、地域産業への従事とおして、被災地の復興を願う強い思いを語ってくれました。



写真1 標準町の標準サーモンパークにて(左から福士晃弘さん、湊 和道さん)

研修の内容は、それぞれの事業所の施設能力、飼育管理方法について説明し、ふ化放流技術の基本は同一であっても、施設構造や管理用水等の状況により管理方法に違いがあることを理解していただき、環境の異なる事業所での実習とおして、その施設に合わせた管理の重要性を学んでもらいました。

また、適正な飼育管理手法として、顕微鏡を用いた寄生虫等の確認(写真2)と対処方法、適正な飼育密度を維持するための稚魚放流(写真3)の実習を行い、海水適応能試験などで放流魚の健苗度を把握する重要性を理解してもらいました。

以上、簡単に研修の概要を報告させていただきましたが、被災地では、復興が進んでいるとは言え、未だ十分には生活環境が整わない中、遠く北海道中標津町まで飛行機を乗り継ぎ研修に訪れたお二人が、岩手県のサケ資源増大に向けてご活躍されることを願っております。



写真2 顕微鏡で寄生虫の確認(伊茶仁さけます事業所)



写真3 池の中が過密にならないように、重量を計算して適宜放流(虹別さけます事業所)